

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

使用教科書：（ 第一学習者 公共 ）

教科 公民 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。 ・公共的な空間において社会に参画する自立した主体となるために、青年期を生きる私たちは、何を考え行動すればよいかを理解する。	公民に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	公民に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自国民としての自覚の他、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 公共 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
公民に関わる諸事象に関して、生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、調査や資料から公民に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。	・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 ・孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生きるのではなく、異文化などの他者との協働により、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察、表現している。 ・伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考察している。	公民に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される・公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

単元名・指導項目・内容	単元の具体的な指導目標	評価規準	知	思	態	記 時 数	
1 学 期	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを理解する。 ・公共的な空間において社会に参画する自立した主体となるために、青年期を生きる私たちは、何を考え行動すればよいかを理解する。 ・公共的な空間で生きていくために必要なこととして、個人として尊重されることや、対話を通して他者を理解することを理解する。 ・伝統や文化と、自らの行動様式や考え方の関係について理解する。 ・生涯にわたって学習していくことの意義を考える。	・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 ・孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生きるとともに、異文化などの他者との協働により、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察、表現している。 ・伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考察している。 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者と共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験などを通して、多面的・多角的に考察、表現している。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。	○	○	○	4
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用し、環境保護や生命倫理など実社会の問題を考える。		○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
	第3章 公共的な空間における基本的原理 第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 主題1 法や規範の意義と役割 主題2 契約と消費者の権利・責任 第2章 消費者の権利と責任 主題3 司法参加の意義 第2章 政治的な主体となる私たち 主題4 政治参加と公正な世論形成	・憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ・法やルールを定める際には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。 ・身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決策を考える。 ・安全で豊かに生き、法をよりよいものにするための権利や、それを実現するための法・規範を理解する。 ・契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。 ・なぜ契約が生まれ、契約を守ることが大切なのかを理解する。 ・消費者と事業者を対等な立場に置き、消費者主権を実現するために、消費者に関する法律が定められていることを理解する。 ・個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要不可欠な「国民が果たすべき責任を理解する。	・どのようにすれば公平・公正に調整できるのか、主体的なルールを作成・利用することで考察、構想、表現している。 ・法をよりよく変えていくために、自由権の意味や、社会権が私たちの生活をどのように変えたのか、新しい人権とは何かをさまざまな立場に立って考察している。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・家庭など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・検察審査会や国民の司法参加の意義など、具体的な主題を設定し、その主題を追究・解決するために考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・選挙のしくみ、政党の役割、世論の形成について、さまざまな情報手段を活用して、考察、構想し、表現している。 ・地方自治には、直接民主制の考え方に基づくしくみが、国政よりも多く取り入れられていることを理解しつつ、地方自治の課題について考察、構想し、表現している。	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	主題5 国際社会と国家主権 1 国家と国際法 2 国境と領土問題 3 国際連合の役割と課題 主題6 日本の安全保障と防衛 1 平和主義と安全保障 2 核兵器の廃絶と国際平和 主題7 国際社会の変化と日本の役割 1 今日の国際社会 2 人種・民族問題と地域紛争 3 国際社会における日本の役割 第3章 経済的な主体となる私たち 主題8 雇用と労働問題 1 私たちと経済 2 労働者の権利と労働問題 主題9 社会の変化と職業観 1 技術革新の進展と産業構造の変化 2 企業の活動 3 農林水産業の現状とこれから 主題10 市場経済の機能と限界 1 市場経済と経済運営 2 市場経済のしくみ 3 経済発展と環境保全 4 経済成長と国民福祉	・日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解する。 ・軍縮に向けて国際社会や私たちには何が必要かを考える。 ・国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解する。 ・今日の国際社会の特徴について理解する。 ・人種・民族問題と地域紛争の背景、現状を理解する。 ・主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。 ・領土問題の背景と現状を理解する。 ・国際社会の平和と安定を維持するための国際連合の取り組みを理解する。 ・日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解する。 ・軍縮に向けて国際社会や私たちには何が必要かを考える。 ・国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解する。 ・今日の国際社会の特徴について理解する。 ・人種・民族問題と地域紛争の背景、現状を理解する。 ・公正かつ自由な経済活動を行うことを通じて資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊厳を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。	・日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・核兵器を廃絶するためには何が必要かを考え、軍縮の意義や効果について、さまざまな観点から考察している。 ・変化する国際情勢の中で、日本の安全が世界の平和の維持といかに関連しているか、広い視点に立って理解し、さまざまな観点から考察している。 ・持続可能な開発(SDGs)にふれながら、国際社会の安定について、国民レベル、国家レベル、国際レベルで何ができるかを、さまざまな観点から考察し、論拠をもって表現している。 ・日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・核兵器を廃絶するためには何が必要かを考え、軍縮の意義や効果について、さまざまな観点から考察している。 ・変化する国際情勢の中で、日本の安全が世界の平和の維持といかに関連しているか、広い視点に立って理解し、さまざまな観点から考察している。 ・持続可能な開発(SDGs)にふれながら、国際社会の安定について、国民レベル、国家レベル、国際レベルで何ができるかを、さまざまな観点から考察し、論拠をもって表現している。 ・雇用と労働問題について、日本の雇用慣行の崩れなど、現代の諸課題を主体的に考察、構想し、論拠をもって表現している。 ・近年の雇用事情の変化とさまざまな労働問題について、具体例をあげて多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1

